

令和8年度
文京区立根津小学校
学校経営方針

具体的方策 1

「質の高い学級集団」

- ①「どの子にとっても居心地のよい空間」「どの子も疎外されない空間」を作ることを目指して、教師が児童に自己存在感を感じさせる指導を行い、学びを保證できる環境作りをする。そのために、違いを認めたり、互いのよさを認め合えたりする人間関係を築いていく。さらに、教職員が明るい笑顔、挨拶、はっきりとした返事、適切な言葉遣いを率先垂範する。
- ②人権意識を向上させ、自他ともに大切にできる児童の育成に努める。
- ③体罰や不適切な指導を排除し、児童を人として尊重する指導を行う。児童の困りごとには、真摯に向き合い、児童の意思を確認して適切に支援する。
- ④年2回のQUテスト等も活用し、いじめ「ゼロ」に努める。教職員は情報を共有し未然防止、早期発見・早期対応に努める。また、児童の問題行動等の連絡を迅速かつ確実に行い、家庭の理解と協力のもとに指導を進める。さらに、SSWやSC等と連携し、きめ細やかな指導を行う。
- ⑤人と関わる楽しさ、集団でやり遂げる達成感を味わわせることを最重点に、学校行事に取り組む。また異年齢集団における関わりの中で、交渉して譲り合ったり、自分たちで考え、決めたりする活動を体験させることで、社会性や連帯感を培い、よりよい関係を築こうとする意欲を高める。
- ⑥「子どもの権利条約」の意見表明権を大切に、発達の段階に応じて児童の意見を取り入れる。
- ⑦「根津スタンダード」に基づき、同一の指導方針のもとに、生活指導の充実を図る。

教育目標

- 「凜と歩む、根津小」…自分の考えをもち、折れない心で、前向きに進んでいく
- 礼儀正しい子……自分も他人も大切に考え、違いを認められる子を育てる。
- つよい子……自分で自分を適切な方向に育てられる、心身ともに健康な子を育てる。
- たくさん勉強する子……自分でしっかり考えて、学び方を決められる子を育てる。



目指す学校像「とも(共・友)に学び お互いを大切にする関わりを築く学校」

本校の教育目標を達成するために、コミュニケーション能力を高め、よりよい人間関係を築くことができる教育を目指す。児童が様々な人と出会い、関わり方を学ぶことで人間関係力の向上を図る教育ができるよう努力する。

具体的な学校像

- 1. 児童が自分らしく活動できる学校
- 2. 教職員が一人一人の児童のよさを認め、伸ばす学校
- 3. 保護者・地域が安心感と期待感を抱く学校

目指す学校像を実現させるための基本方針

- 1. 児童が「自分らしく」あるために
違いを認め、互いの存在を認め合える環境を整える。そのためには、児童に自己存在感＝「一人の人間として大事にされている」「他者に認められている」と感じさせ、教師が自分の言動・行動を見つめ直し、児童が安心感をもって過ごせるよう配慮し、自分の思いを表明できる場を整えていく。
- 2. 「児童のよさを認め、伸ばす」ために
児童をよく見つけ、寄り添い、共感的に理解する。また、他の人を大切にしながら、自分で行動の仕方を考え、決定し適切な行動ができる自分を育てる力「自己指導能力」の育成を図る。そのために、どの子にもわかりやすい対応を平等に行うことを心掛け、児童を適切に支援していく。
- 3. 「保護者や地域が安心感や期待を抱く」ために＝パートナーシップの構築
児童の成長を実感させること、連携を重視し、信頼され、理解し合い、協力し合う体制を整える努力をする。

具体的方策 3

「児童のよさを認め、伸ばす教職員の育成」

- ①教職員が互いを尊重し、認め合い、目標を共有し、全児童を全教職員で育てる。
- ②行事や授業の具体的な進め方について、主任教諭等が主催するOJT講座を実施し、多様な学びを保証して、育成を図る。
- ③常識ある社会人として、信用失墜行為に留意し、服務事故ゼロを維持する。
- ④組織を常に見直し、職層に応じた意識を高め、教育効果を高めていく。
- ⑤業務内容の見直し、効率化を推進し、「働き方改革」と「働きがい」を重視していく。

具体的方策 4

「命と安全を守り健やかに育成する」

- ①緊急事態発生時に対しての体制を整え、施設の安全点検を着実に、安全管理を徹底する。
- ②多様な機関と連携したセーフティ教室や不審者対応訓練、薬物乱用防止教室、様々な想定避難訓練、児童の安全を確保する教育を確実に、自分で考えて身を守る力を高める。
- ③問題行動やいじめ、児童虐待等の未然防止や適切な対応のために、教員間で、情報共有し、共通理解・共通指導を実践する。
- ④特別支援教育・いじめ防止については、校内組織の対応を充実させ、支援体制を構築していく。
- ⑤児童のけが等に関しては、できるだけ早く連絡することで、保護者と児童の安心感を高めていく。

具体的方策 2

「授業の充実」

- ①児童理解を徹底し、全児童が各々の能力を発揮できる授業を目指し、教師の授業力を高めていく。
- ②「根津スタンダード」に基づく共通実践により、学習習慣の確立を目指す。また、「自分で考える時間」と「みんなで交流して考える時間」を取り入れ、学校でしか体験できない授業を工夫し、自分で学び方を考えられる児童を育成する。
- ③学力調査等の分析に基づいた「授業改善推進プラン」を作成する。このプランに基づく授業改善に取り組み、教員の授業力向上、児童の学力向上に努め、基礎学力の定着を推進する。
- ④児童・教員の1人1台端末の利活用を推進していくためのICT教育の充実を図る。

具体的方策 5

「保護者・地域との連携を深める」

- ①保護者・地域に対する接遇(笑顔・挨拶・言葉づかい)に努める。
- ②保護者の声に真摯に耳を傾け、受け止める。途中経過の報告等連絡が密になるよう努力する。
- ③学校公開、学校だより等の他、児童作品の掲示等の随時更新を行い、学校の取組にご理解が得られるとともに、協力体制が整うように努力する。
- ④地域学校協働本部等様々な方々と連携し、地域に根ざした教育を推進する。また、PTAや地域行事等への教職員の参加などから連携が深まるよう努める。
- ⑤学校運営連絡協議会の年3回開催や、学校評価アンケートの実施により、考えや期待を受け止め、よりよい学校づくりを目指し、開かれた学校づくりをする。